

## 第6学年国語科学習指導案【改善版】

日時 平成25年10月31日(木) 5校時  
児童 男子24名 女子16名 計40名  
指導者 永井 臣之介

- 1 単元名 作品カードで伝えよう ～わたしの考える「〇〇」(賢治作品)～
- 2 教材名 「やまなし」宮沢 賢治/「イーハトーブの夢」畑山 博 (光村図書 6年)
- 3 単元の指導目標
  - 【国語への関心・意欲・態度】
    - ・作品から伝わってくるメッセージを的確にとらえるために繰り返し文章を読んだり、複数の作品を比べて考えたりしている。
  - 【読む能力】
    - ・登場人物相互の関係や象徴性の高い表現などを手がかりにしながら、メッセージを暗示させる叙述内容についてとらえ、自分の考えをまとめることができる。〔Cエ〕
    - ・複数の本や文章を比べて読み、各々を結び付けたり比較したりしながら、作品から伝わってくるメッセージや優れた叙述をとらえることができる。〔Cエ〕
  - 【言語についての知識・理解・技能】
    - ・語感、特殊な言葉の使い方などについて関心をもつことができる。〔伝国力〕
- 4 単元を貫く言語活動の特徴

本単元を貫く言語活動として、「作品にちりばめられている優れた叙述についての感想」と「自分が受け取った作品のメッセージ」を自分の言葉でまとめ、それについて友達にコメントをもらい、交流する活動を位置づけた。作品が語りかけてくるメッセージをつかむためには、登場人物が暗に示しているものや内容と題名との関連などについて考えていく活動が必要とされるため、この言語活動を行うことで、「象徴性の高い表現やメッセージを強く意識させる内容についてとらえること〔Cエ〕」の力を伸ばし、複数の本を読む中で「優れた叙述(Cエ)」のよさを実感することができると思う。

- 5 単元について
  - (1) 児童について

子どもたちは、6年生1学期に「森へ」を中心教材に据えた『ポップ作りを通して作品の魅力伝えよう～星野さんの魅力ココにあり！～』という学習を行っている。そこで表現の巧みさについて読み取り、自分なりの評価の言葉を加えてポップで表す活動を行ってきた。その結果、擬人法や擬音語・擬態語を用いたり間接的な表現をしたりすることで想像が膨らむことをとらえられるようになってきている。そういった部分的な表現についての理解やよさの評価はできつつあることから、その点の更なる向上を図っていく。

一方で、文章全体を大きく読んで中心人物が象徴している事柄を考えたり、内容と題名とのかわりを吟味したりすることは十分にできてきたとは言えない。

また、東京書籍標準学力調査を分析した結果、6年生は「情報の取出し」「解釈」「表現」すべてにおいて全国比を割っている。とりわけ、「解釈」は全国比92.1に対し60.0、「表現」は全国比50.5に対して15.9と大きなひらきが見られた。このことから、解釈・表現の力を高めていく必要があると言える。的確な解釈をすることで表現する中身が確かなものとなったり充実したりすると仮定すると、解釈の力をつけることをベースに置きつつ、表現語彙を増やしたり表現手段の幅を広げたりしていくべきではないかと考えた。

### (2) 単元構成と指導にあたって

本単元では、登場する人や物の相互関係や象徴性の高い表現などを手がかりにしながら、伝わってきたメッセージを自分の言葉で表現する力をつけさせたいと考えている。作品「やまなし」は、小さな谷川の底を光・音・鉱物などありとあらゆる自然界の事物を借りて美しく表現されるとともに、川底に飛び込んでくる二つのものが対照的に描かれている。「川底に飛び込んでくる」という事象をかいたたちの目線で表現していることから、登場する物(かわせみ・やまなし・魚など)と人物(かいたち)との関係を読んでいく中で作品のメッセージを捉えてい

くことができると考えている。5月・12月の世界を各々読み取り、最後に作品全体から伝わってくるメッセージをまとめるという3つのステップを踏むことで、段階的に子どもたちの力を伸ばしていくことができるのではないと思う。しかしながら、「やまなし」のもつメッセージをとらえることは簡単とは言い難い。そこで、作品と向き合うことを主としつつ、他の作品や賢治の伝記を読むことで、読みを確かなものにしたたり、解釈を深めたりする一助としていきたい。

第一次では、「叙述」と「そこから伝わってくる」との違いを整理するために、「お手紙」（光村2年下）の学習をもう一度行う。低学年では直接書かれているものを正確に読み取る力、高学年では、言葉・文の裏側にあるものを読み取っていく力をつけていくのが大切であると確かめ合う。その後「やまなし」を紹介し、伝わってくるメッセージを何の手がかりも与えず書かせる。そこで生まれる「分からない」「考えたけれども自信がない」という思いを取り上げ、テキストに向き合っていくこと・並行読書・互いの考えを聞き合うことで課題解決していく見通しをもたせる。

第二次では、5月の世界と12月の世界を各々読解し、叙述に根拠を求めながらそれぞれの幻灯から伝わってくるメッセージについて自分の言葉で書きまとめる。次に、二枚の幻灯を比較して気が付いたこと・考えたことを手がかりに、作品全体から受け取ったメッセージを書く。

第三次では、賢治の伝記を読み、生き方や考え方をとらえさせる。そこで得たものや並行読書してきた作品から気が付いた作品の共通性なども手がかりの一つとしながら、自分が読み進めてきた作品から受け取ったメッセージを自分の言葉で表現する。作品カードの最後には「わたしが考えた作品のメッセージについて〇〇さんはどう思いますか」と問いかける一文を加え、それに対するコメントをもらう。この一言により、相手意識が明確になるとともに、さらに読みが深まる可能性が生まれると考えている。

## 6 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読む能力	言語についての 知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>作品から伝わってくるメッセージを的確にとらえるために繰り返し文章を読んだり、複数の作品を比べて考えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>象徴しているものを手がかりに作品から伝わってくるメッセージをとらえ、自分の考えを作品カードにまとめている。[Cエ]</li> <li>複数の本や文章を比べて読み、各々を結び付けたり比較したりしながら、作品から伝わってくるメッセージや優れた叙述をとらえている。[Cエ]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語感、特殊な言葉の使い方などについて関心をもっている。[伝国カ]</li> </ul>

## 7 単元計画（全9時間）

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価
一	課外	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お手紙」（光村2年下）を見せ、登場人物・あらすじをまとめさせる。</li> <li>どんなメッセージを受け取ったかを書いてみる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物と場面設定をみんなで確認する。手紙が来なくて不幸せながまくんというはじめの設定を確認し、その後何があったのかを書かせる。</li> <li>このお話からどんなメッセージを受け取ったか書かせ、「メッセージを受け取る」ことのイメージをもたせる。</li> </ul>	<p><b>関</b>意欲的に文章を読み、自分の考えを書いている。</p>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの受け取ったメッセージを聞き合う。</li> <li>書かれていること、その裏側にあるものの違いを確かめ合う。</li> <li>「やまなし」の裏側にあるものを書いてみる。</li> <li>深く読んでいくための手段を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの発表してくれた言葉を使いながら叙述と解釈の違いを説明する。</li> <li>「難しい」「よく分からない」という思いを取り上げ、より理解を深めるためにはどうすればよいかを問う。</li> </ul>	<p><b>関</b>学習のゴールをイメージしている。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>作品カードのイメージをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルとなる作品カードを提示し、「イメージ」と「書く際の観点」を確認する。</li> </ul>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">       作品カードで伝えよう ～わたしの考える「〇〇」(賢治作品)～     </div>			
ニ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てる。</li> </ul>	並 行 読 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書するために、賢治作品(物語)を事前に集めておく。「よだかの星」「双子の星」「おきなぐさ」「虔十公園林」「なめとこ山の熊」「氷河鼠の毛皮」などは全員読むようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画を立てようとしている。</li> </ul>
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「やまなし」を概観する。【情報の取り出し】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートを用いて場面の把握をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読登場人物の関わりを読み取りながら概観している。(シート)</li> </ul>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の世界の表現について、自分の考えをまとめる。</li> <li>【解釈】【表現】</li> <li>※4時と5時を交換する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の世界から受け取ったメッセージと表現とを結びつけながら、技法などにも目を向けていく。</li> <li>場面設定や作中人物の動きについての叙述(地の文)に目を向けさせ、場面の様子をしっかりと把握させるとともに、表現技法の特徴を位置づけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読優れた叙述を味わい、想像し、自分の言葉で表現している。(カード)</li> </ul>
	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>5月の世界から受け取ったメッセージを書く。</li> <li>【解釈】【表現】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>登場してくる生き物に着目させ、その生き物たちが幻灯の中でどんな役割をもっているか考えさせる。その際、「〇〇がもしいなかったらどんな世界かな。」と問い、存在の象徴しているものを想像させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読5月の幻灯から強く伝わってきたことについて書きまとめている。(カード)</li> </ul>
	6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月の世界から受け取ったメッセージを書く。</li> <li>【解釈】【表現】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>12月の登場人物の行動と会話に着目させ、解釈を深めていく。特にお父さんの行動と「ひとりでおいしいお酒が…」の部分を重点的に取り扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読12月の幻灯から強く伝わってきたことについて書きまとめている。(カード)</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月の世界の表現について、自分の考えをまとめる。</li> <li>【解釈】【表現】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>12月の世界から受け取ったメッセージと表現とを結びつけながら、技法などにも目を向けていく。</li> <li>他の作品の表現と比べながら、よさを認識する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読優れた叙述を味わい、想像し、自分の言葉で表現している。(カード)話</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品全体から受け取ったメッセージを書く。</li> <li>【解釈】【表現】</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>やまなしの存在について、かわせみと比較しながら(共通点や相違点を明らかにさせながら)考えさせる。象徴している内容を考えさせる。</li> <li>題名と内容の関連について考えさせる。</li> <li>作品「やまなし」から、自分が受け取ったメッセージをまとめ、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読作品から強く伝わってきたことについて書きまとめている。(カード)</li> </ul>
	三	9		<ul style="list-style-type: none"> <li>賢治の伝記や資料から賢治の考え方や人柄を読み取る。</li> <li>【情報の取出し】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「イーハトーブの夢」と年表(『宮沢賢治の童話』日本図書センター)を手がかりに賢治の足跡と自分が感じ取った賢治像を書きまとめる。</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>並行読書している本をベースにした作品カードを作る。</li> <li>【表現】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1段落目には受け取ったメッセージ、2段落目には他の作品の言葉を引用したり、比較した内容を書き表したりし、3段落目で「〇〇さんはどう思いますか。」と尋ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読学習してきた観点を意識しながら、作品から読み取ったメッセージを書き表すことができる。(カード)</li> </ul>	
	11	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いのカードを読みあい、自分なりの読みを書かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読友達の読みの妥当性を考え、自分の考えを広げたり深めたりしている。(カード・会話)</li> </ul>	

9 本時の指導

(1) 本時の目標

「かわせみ・魚」と「やまなし」の共通性・相違性を考えながら、12月の世界から受け取ったメッセージを自分の言葉でまとめることができる。〔Cエ〕

(2) 本時の展開

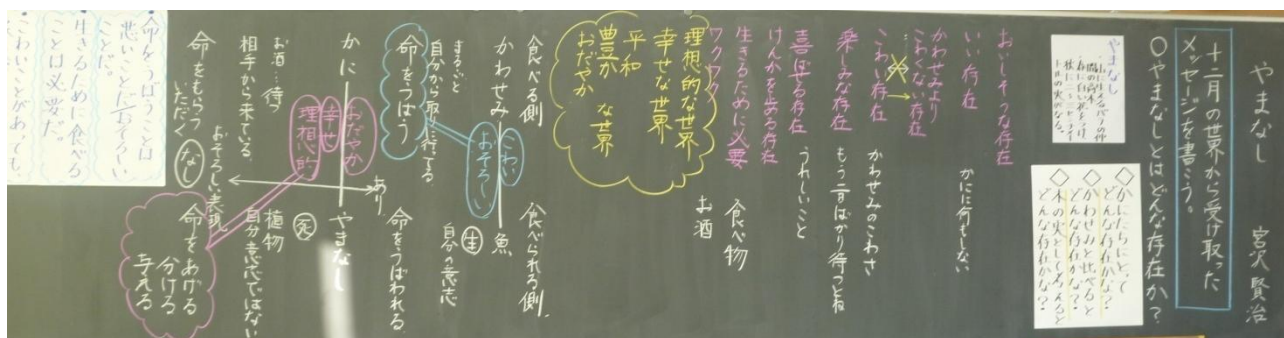
	主な学習内容	指導の手立て 評価
導入 2分	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12月の世界から受け取ったメッセージを書こう。</div>	・ゴール像を意識させるために、活動内容に関する課題とする。
展開 42分	2 本時の場面設定を確認する。 3 文章をもとに想像を広げる。 ◎やまなしはどんな存在か。【解釈】 ◎十二月の世界とはどんな世界か。【解釈】 以上の観点で一人学びを行う。 4 考えたことをもとに学び合う。 ◎食べる行為は同じなのに、なぜ12月の方は明るく描かれているのだろう。 【解釈】 ○どこが違うのだろう。【解釈】 5 話し合ったことを手がかりに作品全体から受け取ったことを文章にする。 ◎みんなにとって12月の世界はどんな世界でしたか。【表現】 6 発表する。(数人)	・登場人物、情景等を簡単に確認する。 ・一人学びを行う際、考えが浮かばない児童には学びの手引きを配付する。 ・考えがまとまっている児童には、自分の考えたことを「さらに別の言葉に置き換えて表現してごらん。」と声をかける。 ・やまなしそのものの特徴だけでなく、かにたちにとってのやまなしとはどんな存在なのかという問いを投げかける。 ・必要に応じてペアワークなどを取り入れる。 ・共通点→「命を落とす」 ・相違点→「命を奪う(他者から与えられる急な死)・命を全うする(自然と訪れる死)そして、他の生命に命を与える」 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">(評価) 12月の世界から伝わってきたメッセージについて書きまとめている(カード・発言)</div> ・相手(事前に決めている人とその他にも読んでもらいたい人)をカードに書き、「〇〇さんはどう思いますか。」と問いかける形でカードの文章を締めくくる。
終末 1分	7 ふりかえり 8 次時への見通しを持つ	・板書をふりかえりつつ、本時伸びた力を価値付ける。 ・ <u>伝わってきたメッセージと、もともなった叙述や対象を明らかにし、表現の工夫がかけられているか見ていくことを伝える。</u>

(3) 本時の評価規準

	十分満足	おおむね満足	Bに至るようにするための手立て
読むこと	12月の世界から受け取ったメッセージについて、5月の世界と比べたり、ほかの作品と比べたりしながら書きまとめている。	12月の世界から受け取ったメッセージについて書きまとめている。	かにたちの言葉に着目させ、やまなしの存在を明らかにする。考えを聞き取り、文章にできるように言葉を提示する。

10 板書計画

<p>よい。</p> <p>やまなしのような自然な死がいい。</p> <p>死んだあとも他の生物を幸せにする生き方が</p>	<p>わたしの考える「やまなし」</p> <p>1 段落→作品受け取ったメッセージ</p> <p>2 段落→他の作品と比較して書く。 「ほかにもこんな本を読みました、」「それぞれの作品の共通点を見てみると」などの文を入れる。</p> <p>3 段落→「〇〇さんはどう思いますか。」</p> <p>・読みの飛躍や誤読がないかを確かめる。 ・自分の考えを昇華させる友達の読みを探す ・わからないところは遠慮なく質問する。 ・関連している作品や表現などに気付いたらアドバイスをする。</p>	<p>やまなし</p> <p>宮沢 賢治</p> <p>十二月の世界から受け取ったメッセージを書こう。</p> <p>登場するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かたち</li> <li>・やまなし</li> </ul> <p>〇十二月のかにたちの気持ち</p> <p>〇やまなし</p> <p>気持ちがいいな 楽しいな おだやかだな ウキウキ</p> <p>黒い丸い大きなもの いいにおいを放つもの 木から落ちてきたもの かにたちを幸せにするもの</p> <p>喜びを与えるもの 命を与えるもの</p> <p>〇十二月の幻灯はどんな世界か。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しくおだやかな世界</li> <li>・喜びがあふれる世界</li> <li>・生の世界</li> </ul> <p>十二月の幻灯から伝わってきたメッセージとは：</p>
----------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------



【実際の板書】

11 指導案改善にあたって

本単元の学習を行った児童の様子から次のような改善策を考えた

ア 単元構成に関わって

- ・主題（メッセージ）を考えたあとのほうが、子どもたちはすんなり表現に向かっていったように感じた。「こんな印象や主題をもつ作品は、どんな表現をしているのだろうか。何か秘密があるのだろうか。」という問いの方が意欲的に取り組めたと思う。そのため、単元計画の順番を変えるとともに、主題・印象と結びつけながら表現を見ていく手立てをとる形にした。
- ・単元のゴール像が明確になるように、もっと作例を出していく。

イ 本時に関わって

- ・次時への見通しのところでは、自分が受け取ったメッセージと表現を結びつけながら考えるように促す。時間的に厳しいが、できればだれかの発表を例に取りながら、「〇〇さんが受け取ったメッセージは、どこの部分から特に感じられるかな」などと問い、表現技法への移行を促せたらなおよい。